

# 新課程に向けた検討状況

大学入試の情報明らかでない状況で、なかなか前進しない新課程の検討。各校ではどこまで検討が進んでいるのだろうか。弊社のアンケート結果を基に整理する。

## 学校の状況により重視する方針は異なる

新課程カリキュラム（2013年度）の検討は「ほぼ原案・仮案としてまとまっている」が全体の4分の1（図1）、授業計画（シラバス）の策定は「まだ着手していない」が9割弱を占めた（図2）。

新課程に向けた検討で「大切にしたい視点」（図3）は「希望進路実現の達成」をどのグループも挙げ、次いで、グループ①②は「高次の学力獲得」「幅広い教養や偏りない学力育成」を、グループ③④⑤は「基礎基本の定着」「学校全体やコース、類型の特色化」を重視している。学校が抱える生徒の状況によって、重視する方針が異なることが分かる。

図2 授業計画（シラバス）策定

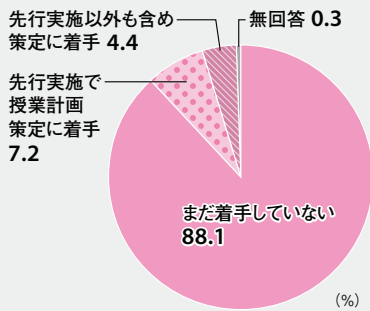


図1 カリキュラムの検討

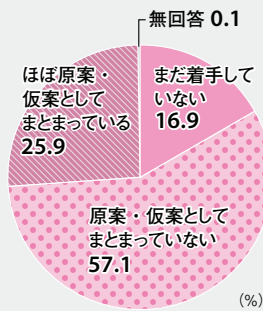
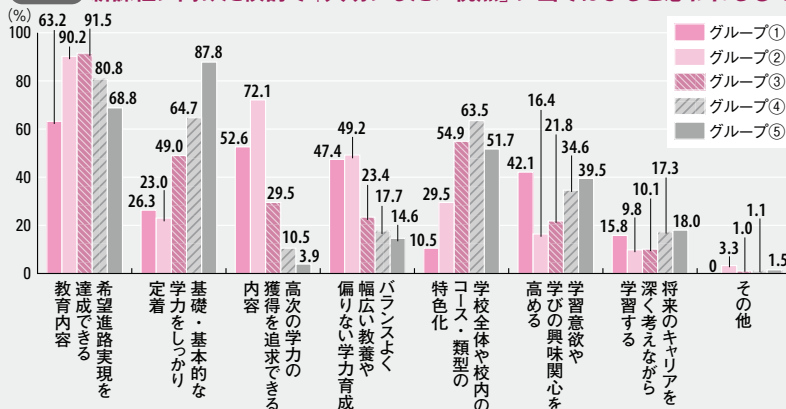
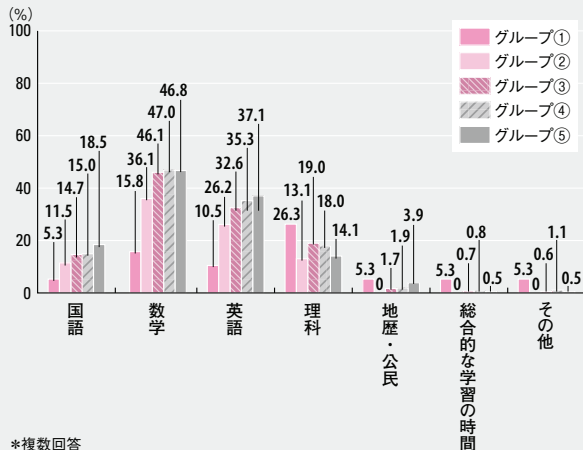


図3 新課程に向けた検討で「大切にしたい視点」に当てはまると思われるもの



\*複数回答

図4 中学校の新課程における授業時数・学習内容の増加を考慮した時に高校1年次の段階で重視すべき教科



\*複数回答

### 「新教育課程に関するアンケート」調査概要

- 調査主体：ベネッセコーポレーション高校事業部
- 調査時期：2010年10～11月
- 有効回答数：教務1,457件、数学科担当1,363件（国公立964校、私立446校）
- 学校類型の設定：07～09年度の合格実績・進路状況により5つのグループに分けた（ベネッセコーポレーション「合格者数一覧」「入試結果調査」を使用）
  - ・グループ①は、東京大20人以上、または東京大・京大60人以上、または20%以上
  - ・グループ②は、難関9大（\*1）20%以上、早慶100人以上
  - ・グループ③は、国公立大1%以上、早慶上智・MARCH（\*2）30人以上、関関同立（\*3）30人以上
  - ・グループ④は、推薦入試での進学が5割以上
  - ・グループ⑤は、就職が1割以上
- \*1 北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京大、大阪大、九州大
- \*2 明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大
- \*3 関西大、関西学院大、同志社大、立命館大

中学校の新課程を考慮した時に1年次で重視すべき教科は、全体では「数学」が最も多く、次いで「英語」「理科」だった。グループ別に見ると、国数英はグループ⑤が高く、グループ①は最も低い。一方、理科ではその逆の傾向が見られた(図4)。

**1年次に理科の履修単位を4単位とする学校が多い**

新課程での総単位数は2割が「増加」予定であり(図5)、国公立に比べて私立の方が、どの学年も1~2単位多いことが分かる(図6)。

12年度1年次の理科では、履修単位を4単位分とする学校が3割と最も多かった(図8)。グループ別に見ると、履修予定の科目に違いはあるものの、「化学基礎」「生物基礎」はどのグループも多い(図9)。

数学Aの1年次の選択履修予定は、「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」の三つ全部履修が5割強と最も多い(図10)。数I・Aの履修予定は、「直列履修」と「並列履修」にほぼ二分された(図11)。

図7 2013年度入学生の1年次の予定単位数

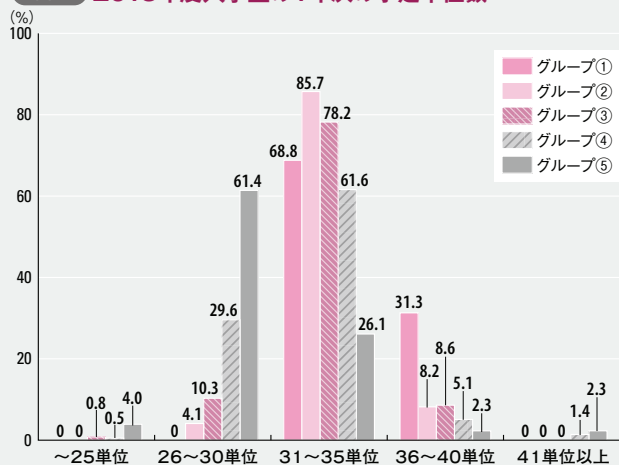


図5 新課程の総単位数

(2013年度入学生の1~3年次の合計)

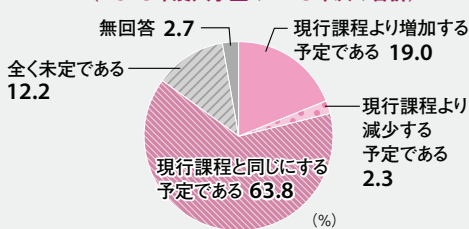


図6 国公立別・新課程の予定総単位数 (2013年度入学生の1~3年次)

	1年次	2年次	3年次
国公立平均	32.0	32.0	31.7
私立平均	33.6	33.5	32.7

(単位)

図9 2012年度1年次の理科の履修予定科目 (2単位枠のみ)

	科学と人間生活	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
グループ①	5.3	42.1	42.1	42.1	10.5
グループ②	4.9	24.6	31.1	36.1	1.6
グループ③	5.8	29.6	36.0	41.9	4.5
グループ④	12.0	19.5	35.7	26.3	3.8
グループ⑤	23.9	8.3	21.0	19.0	5.4

30%以上 (濃い色) 10%以上30%未満 (薄い色) (%)

図8 2012年度1年次の理科の履修単位数

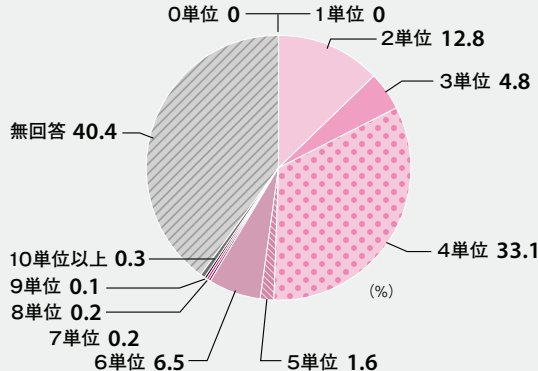


図11 2012年度数学I・Aの履修形態の予定

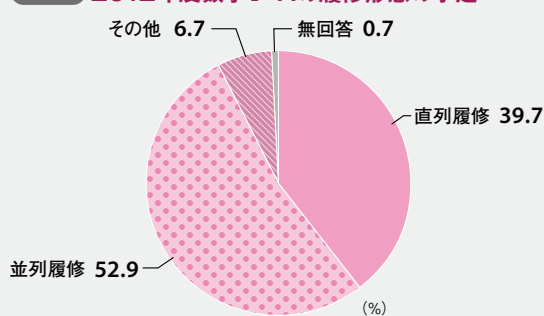


図10 2012年度1年次の数学Aの選択履修予定

